

きんもくせい

令和2年2月14日発行
静岡県養護教諭研究会
代表 増田 真澄
(磐田市立城山中学校)



「新しい年に想う」

静岡県養護教諭研究会 幹事 土屋智美

2020年は新しい時代の幕開けを実感する年になりました。元号が「令和」に変わり、今年は待ちに待ったオリンピックイヤーです。決意も新たに、わくわくする思いと引き締まる思いで毎日を過ごしています。

「ゆく川の流れは絶えずして しかももとの水にあらず……」『方丈記』で鴨長明が綴った言葉ですが、時代の流れと共に私たち養護教諭の職務も様々に変化してきました。向き合っている子供たちへの対応や子供たちの家庭環境も多様化してきています。スマホによる弊害・LGBT・アレルギー対応・熱中症対策等、平成の時代に生まれた新たな健康課題の対応に日々追われてきました。

まだまだ勉強しなければいけないことは山積みですが、どれだけ時代が変わっても養護教諭の職務は変わらないということ、12月の林先生の講演（冬季研修会）で気づかせていただきました。それは『不易な活動』を継続し、広げていくことこそが大事な使命だということです。

本校の思春期講座で学校に講演に来てくださる精神科医の先生は、ストレスを軽くする3つの助けに人ぐすり・環境ぐすり・時間ぐすりをあげています。中学2年生と一緒に講演を聞きながら、いつも自分を振り返っています。「助けや救いを求めてくる人を楽にする人でありたい、子供たちや先生方の心が軽くなる保健室でありたい、あせらずにゆっくり寄りそえる養護教諭になりたい。」不易な活動を太い根にして、新しい枝葉を育てていける年にしたいです。

❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️ 地区紹介 沼津地区 ❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️

沼津地区は、小学校 23 校、中学校 16 校、小中一貫校 1 校、中等部 1 校、会員数 42 名で組織されています。研修テーマを「小中一貫教育をふまえた保健教育」として研修を進めています。「性教育」「心の教育」「危機管理教育」「教科保健教育」「ほけんだより」の5グループに分かれ「義務教育9年間で子供を育てる」という視点から、沼津市全体で9年間を通して目指す子供の姿を共有した保健教育について研究を深めています。中学校区のグループで行う校區別研修も実施し、校区内の健康課題や課題解決に向けての取組み、学校保健委員会、小中連携等についての研修をしました。また、毎年「すこやか」（学校保健統計冊子）を編集しており、沼津の子供たちの健康実態を把握し、学校保健に役立てています。

今後も、組織力の向上・研修の充実を目指し、地区全体の連携・共通理解を深めたいと思います。

冬季研修会報告



12月17日、「グランシップ」にて、冬季研修会が開催されました。講師に、全国養護教諭連絡協議会 名誉顧問 林典子氏をお迎えし、養護教諭としての不易な活動について「養護教諭実践事例集16」を用いて研修を行いました。講演やワークの要点、参加者の感想をお伝えします。

<午前部>

講演 「養護教諭の have to ～養護教諭としての不易な活動を考える～」

講師 全国養護教諭連絡協議会 名誉顧問 林典子氏

「不易」とは、変わらないこと。養護教諭の不易な活動とは、養護教諭としての経験が浅くても、ベテランであっても、学校規模が大きくても、小さくても、必ずやるべき活動、やらなければならない活動である。この養護教諭の不易な活動こそ誰にでもわかるように「見える化」して、学校全体の活動へつなげて、広げていかなければならないということを学んだ。



【感想】

林先生の言葉一つ一つが自分の身に染み、自分の日頃の職務や働きぶりを頭に思い浮かべながら、お話を聴くことができた。特に、自分は一つ一つの職務項目に対して自己評価ができていないことに気がついた。養護教諭の職務を「見える化」することは、ひいては同じ目標を共有する職員のため、当然子供たちや保護者のため、さらには自分のためになるということがわかった。

<午後部>

ワークショップ「養護教諭の不易な活動としての標準的職務を見直す」

ワーク1 「養護教諭の一日の活動について」

自分の一日の活動を振り返り、ワークシートに書き出すことで「見える化」した。

その後、グループの中で発表し、一日の活動を共有した。

ワーク2 「養護教諭としての不易な活動について」

【ワークの感想】

A 校内巡視

校内巡視のねらいや視点を再確認できた。何か起きたからではなく、通常を知っておくことの大切さ、いつもと違う、最近なんだかおかしいという気づきをもてるような校内巡視を行っていきたい。

C 保健室来室児童生徒の対応

保健室で対応したことをおたよりで保護者に伝える際に、担任を通して渡したり、保護者が確認したら学校に返信してもらったりする仕組みを作りたい。

E 運動会・体育大会

ブレインストーミングの結果から事前準備が多いこと、事前に組織として共有できていると子供の安心安全につながることを再確認できた。また、このまとめたもの見える化することで、職員との共通理解、情報交換の材料とすることができると気づくことができた。

B 健康観察

教室の環境衛生検査結果を健康観察カードに記入する方法をすぐにとり入れたい。養護教諭だけが意識し検査するのではなく担任にも意識をもたせるための見える化は参考になった。

D 大きな事故発生・再発防止

事故発生後の振り返りを行っていなかった。今後、事故が発生した場合、必ず振り返りを行うとともに、救急体制も同時に見直していきたい。



* 冬季研修会の詳細および研修会に参加していただいた5人の指導助言者(教育主幹 岡村めぐみ先生 指導主事 大澤京子先生 浅野慶子先生 松本美千代先生 スクールヘルスリーダー 山崎友子先生)の指導講評は、静岡県養護教諭研究会 HP に掲載されています。ぜひ御覧ください。